

令和 6 年度 (2024)

年 間 授 業 計 画

第一学年



教 科	科 目	ページ
国 語	現代の国語	1
	言語文化	2
地理歴史	地理総合	3
	歴史総合	4
数 学	数学 I	5
	数学 A	6
理 科	物理基礎	7
	化学基礎	8
	地学基礎	9
芸 術	音楽 I	10
	書道 I	11
	美術 I	12
保健体育	保健	13
	体育（女子）	14
	体育（男子）	15
外国語	英語コミュニケーション I	16
	論理・表現 I	17
情 報	情報 I	18
総 合	総合的な探究の時間	19

教科・科目	地理総合	2単位	対象学年	1 学 年
教科書	帝国書院『高等学校 新地理総合』		教科担当者	
副教材	『新詳地理資料 COMPLETE2022』			

目標	【A：知識及び技能】 知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	【B：思考力、判断力、表現力等】 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	【C：学びに向う力、人間性等】 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。
----	--	--	--

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一学期	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界	26	・地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 ・学習者用端末を活用して地図や地理情報システムなどを用い、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ・地図や地理情報システムについて、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地図や地理情報システムを用いて地域調査を行い、主体的に追究、解決する。 ・方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 ・世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。	○	○	○	ワークシート、単元見通しシート、定期考査、小テスト、課題レポート、グループ発表など
二学期	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の暮らし 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食糧問題 6節 都市・居住問題	30	・地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 ・自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。 ・世界の人々の生活文化について主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。 ・地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 ・地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	○	○	○	ワークシート、単元見通しシート、定期考査、小テスト、課題レポート、グループ発表など
三学期	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望	14 合計 70	・自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 ・さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。 ・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ・自然災害への備えを生活圏の調査と地域の展望に関連させ、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究し、解決しようとする態度を養う。	○	○	○	ワークシート、単元見通しシート、定期考査、小テスト、課題レポート、グループ発表など

教科・科目	歴史総合	2 単位	対象学年	1 学 年
教 科 書	山川出版社『歴史総合 近代から現代へ』		教 科 担 当 者	
副 教 材	「歴史総合 近代から現代へ ノート」 「地図&年表で整理 歴史総合」			

目 標	【A：知識及び技能】 知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	【B：思考力、判断力、表現力等】 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	【C：学びに向う力、人間性等】 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
-----	---	---	--

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	第 1 部 近代化と私たち 1 結びつく世界 2 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 3 明治維新と日本の立憲体制 4 帝国主義の展開とアジア	26	大航海時代以前、アジアでは大帝国が繁栄し、ヨーロッパよりも経済・文化が発展していたが、大航海時代以降に始まる世界の一体化の中で、大変化を遂げたヨーロッパに立場を逆転される。その大逆転の理由を理解させる。 その後ヨーロッパが中核として周辺諸国となったアジア・フリカを植民地化する帝国時代となるが、その中で、アジアで唯一ヨーロッパに起きた大変化を自ら学び実現させた我が国日本について学ぶ。	○	○	○	定期考査、小テスト、歴史総合マイノート、課題レポート、ペアワーク、グループ発表 など
二 学 期	第 2 部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 5 第一次世界大戦と大衆社会 6 経済危機と第二次世界大戦 7 戦後の国際秩序と日本の改革	30	第一次世界大戦と第二次世界大戦の帝国主義戦争としての側面を基軸にしつつ、それぞれの世界大戦が世界と日本にもたらした変化について学ぶ。 また第二次世界大戦をめぐる国際的な利害関係の変遷と、戦後の冷戦の成立について理解させる。 帝国主義から冷戦期の日本の発展と限界、第二次世界大戦後の変容について学ぶ。	○	○	○	定期考査、小テスト、歴史総合マイノート、課題レポート、ペアワーク、グループ発表 など
三 学 期	第 3 部 グローバル化と私達 8 冷戦と世界経済 9 グローバル化する世界 10 現代の課題	14	冷戦の変遷と崩壊、冷戦の中で高度経済成長を遂げた戦後の日本について学ぶ。 また冷戦の終結によって起きた世界の変化とグローバル化、それによって現在生じている世界と日本の課題について理解させる。	○	○	○	定期考査、小テスト、歴史総合マイノート、課題レポート、ペアワーク、グループ発表 など
		合計 70					

教科・科目	数学 I	3 単位	対象学年	1 学 年
教 科 書	深進数学 I		教 科 担 当 者	
副 教 材	体系数学 3 数式関数編 体系問題集数学 3 数式関数編 チャート式基礎からの数学 I + A, II + B		A () B () C ()	

目 標	【A：知識及び技能】 各単元における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につける。また、事象を数学的に表現・処理する仕方 や推論の方法などの技能を身に付ける。	【B：思考力、判断力、表現力等】 各単元において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の課程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。	【C：学びに向う力、人間性等】 各単元における考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できるようにする。
-----	--	--	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	第 3 章 2 次関数 第 2 節 2 次方程式と 2 次不等式 第 4 章 図形と計量 第 1 節 三角比 第 2 節 三角形への応用	35	・ 2 次関数の意味、グラフの意味を理解する。 ・ 2 次方程式、2 次不等式の解と 2 次関数の関係について理解する。 ・ 正弦・余弦・正接の意味を知り、三角比が活用できることを理解する。 ・ 鋭角の三角比の概念を理解する。 ・ 三角比を鈍角に拡張し相互関係を調べる。 ・ 正弦定理、余弦定理を理解して三角形を多角的に調べる。 ・ 三角形の面積を求める手立てを理解する。 ・ 空間図形の計量に三角比を活用する。	○	○	○	授業 定期考査 課題レポート
二 学 期	発展的な学習 数の拡張と方程式・関数	43	発展的な内容を実施しています。	○	○	○	授業 定期考査 課題レポート
三 学 期	発展的な学習 三角比の応用	27	発展的な内容を実施しています。	○	○	○	授業 定期考査 課題レポート
		合計 105					

教科・科目	数学 A	2 単位	対象学年	1 学 年
教 科 書	深進数学 A		教 科 担 当 者	
副 教 材	体系数学 3 論理確率編 体系問題集数学 3 論理確率編 チャート式基礎からの数学 I + A, II + B		A () B () C ()	

目 標	【A：知識及び技能】 各単元における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につける。また、事象を数学的に表現・処理する仕方 や推論の方法などの技能を身に付ける。	【B：思考力、判断力、表現力等】 各単元において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の課程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。	【C：学びに向う力、人間性等】 各単元における考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できるようにする。
-----	--	--	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	準備 集合と命題 第 1 節 集合 第 2 節 命題と条件 第 3 節 命題と証明 第 1 章 場合の数と確率 第 1 節 場合の数 第 2 節 確率	25	・集合の要素の個数を数える工夫を学習する。 ・場合の数を利用して和の法則、積の法則を理解する。 ・順列、組合せに関する基本事項を学び、具体的な問題を考える中で、使い方を習熟する。 ・試行と事象の意味を明確にし、確率の定義を理解し、基本的な法則や性質を習熟する。 ・確率の加法定理、独立な試行や反復試行の確率を理解する。 ・条件つき確率と確率の乗法定理の学習を通して、具体的な事象を数学的に考察し処理する力を伸ばす。 ・発展的内容の問題を通して応用力をつける。	○	○	○	授業 定期考査 課題レポート
二 学 期	第 5 章 データの分析 第 2 章 整数の性質 第 1 節 約数と倍数 第 2 節 ユークリッドの互除法 第 3 節 整数の性質の活用	30	・データを整理することのよさを認識し、データを度数分布表やヒストグラムを用いて表すことを習熟する。 ・データの特徴を詳しくとらえる方法として、四分位数、箱ひげ図を理解する。 ・散布図をつくり、相関係数を求め、2 つの変量の相関をとらえることができる。 ・最大公約数と最小公倍数の関係を理解する。 ・割り算の余りによる整数の分類を利用し、整数の性質を考察する。 ・整数の除法の性質に基づいてユークリッドの互除法の仕組みを理解し、2 つの整数の最大公約数の求め方を学習する。 ・2 元 1 次不定方程式の解の意味を理解し、ユークリッドの互除法を活用して、解を求める。 ・2 進法などを用いて数を自由に表記し、加法・減法・乗法などの計算を理解する。	○	○	○	授業 定期考査 課題レポート
三 学 期	発展的な学習 式と証明	15	・二項定理について理解し、それを利用して展開式やその項の係数を求める。 ・二項定理を等式の証明に活用する。 ・恒等式の性質を入り会し、係数比較法や数値代入法をつかって定数を求める。 ・ $A=B$ と $A-B=0$ が同値であることを利用して等式を証明する。 ・ $A>B$ を証明するには、 $A-B>0$ を示せばよいことを利用して不等式を証明する。 ・相加平均・相乗平均の大小関係の有用性を理解し、それを利用して不等式を証明する。	○	○	○	授業 定期考査 課題レポート
		合計 70					

教科・科目	物理基礎	2単位	対象学年	1 学 年
教科書	物理基礎 （数研出版）		教科担当者	
副教材	改定版 リードα 物理基礎 （数研出版）			

目標	【A：知識及び技能】 知識の習得や知識の概念的な理解，実験操作の基本的な技術の習得ができているか。	【B：思考力、判断力、表現力等】 習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	【C：学びに向う力、人間性等】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において，粘り強く学習に取り組んでいるか，自ら学習を調整しようとしているか。
----	--	---	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 第2章 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつりあい 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力	26	・物体の運動を表すには向きが必要であること，および速さと速度の違いを理解させる。 ・直線上の合成速度，相対速度の意味と求め方を理解している。	○			定期考査、 実験レポート 課題レポート、 小テスト グループ発表 など
			・動く観測者から見た場合の，観測者と同一直線上を動く物体の運動のようすを説明できる。		○		
			・力がベクトル量であることを認識し，力の合成や分解ができる。 ・注目する物体にはたらく力が指摘でき，つりあいの式が立てられる。 ・作用・反作用の2力とつりあいの2力を区別して考えることができる。	○			
			・摩擦力がないときと比較するなどして，どのようなときに静止摩擦力や動摩擦力が現れるか，またそのときの物体の運動ついて，興味・関心をもち考えようとしている。 ・ノートの作成、発表時の工夫に主体的に取り組ませる。			○	
二 学 期	第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存 第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 重ねあわせの原理 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴	30	・仕事の定義を正確に把握させる。特に，物体の移動方向に垂直にはたらく力は仕事をしないこと，移動の向きと力の向きが逆のときは仕事は負になること，および，正・負の仕事の意味について具体的に理解させる。F－x図の面積が仕事の大きさを表すことを理解させる	○			定期考査、 実験レポート 課題レポート、 小テスト グループ発表 など
			・物体に保存力以外の力がはたらくとき，その仕事の量だけ物体の力学的エネルギーは変化することを理解し，物体の運動を考えることができる。		○		
			・力学的エネルギー保存則について興味関心をもち，理解しようとしている。			○	
			・波の原理、基本概念を理解させ、音波の共鳴現象について説明させ、実験データの解析を行い発表させる。	○	○	○	
三 学 期	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1. 電気の性質 2. 電流と電気抵抗 3. 電気とエネルギー 4. 電流と磁場 5. 交流と電磁波 6. エネルギーの利用	14	・電流と電圧の基礎について理解させる。 ・オームの法則，抵抗の接続，抵抗率の基礎について理解させる。	○			定期考査、 実験レポート 課題レポート、 小テスト グループ発表 など
			・電流と磁場の関係について説明できる。 ・モーターの回る原理について説明できる。 ・身近な電磁誘導の利用例について，説明できる。		○		
			・直流と交流の違いや送電時の工夫について，主体的に考えることができる。			○	
		合計					
		70					

目 標	【A：知識及び技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	【B：思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	【C：学びに向う力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
--------	--	---	---

- 8 -

目標	【A：知識及び技能】 観察、実験などを行い、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方につながる知識と技能を養う。	【B：思考力、判断力、表現力等】 科学の方法に従った観察、実験などを行い、それらの報告書や発表を通じて地学的に探究する能力を養う。	【C：学びに向う力、人間性等】 日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって学習活動を行わせ、地学的に探究する態度を育てる。
----	--	--	--

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	地球 地球の概観 地球の内部構造 地震波 活動する地球 プレートテクトニクスと地球の活動 地震 火山活動と火成岩の形成	26	地球の形状 (1) 重力と地球楕円体についても、科学史の観点から扱い、物理的なセンスを身につけさせる。 地震波を用いた地球内部構造 (1) 波動の物理にも触れて、「見えない内部を観る」考え方を理解させる。 (2) 地震波の解析を実習して、地震動の性質を理解させる。 プレートテクトニクス (1) 日本列島を中心にプレートと地学現象の関係を理解させる。 火成岩 (1) 鉱物と火成岩の分類について科学的な分類と地球の構成物質について理解させる。 プレートテクトニクス (1) 日本列島を中心にプレートと地学現象の関係を理解させる。 火成岩 (1) 鉱物と火成岩の分類について科学的な分類と地球の構成物質について理解させる。	○	○	○	・評価Aは、主に定期考査や小テストと実験・観察実習で総合的に評価する。 ・Bは、主に定期考査の論述と実習報告書、課題等の内容で評価する。 ・Cは、講義や実習の取り組みやその成果物から総合的に評価する。
二 学 期	移り変わる地球 地球の誕生 地球と生命の進化 (自然との共生) 地球史の読み方 大気と海洋 大気の構造	30	(1) ビッグバンからの宇宙の形成 (2) 宇宙の広がりとその観測の視点から扱う。 (3) 太陽－地球系の環境についても扱う。 地球環境の変遷と生物進化 (1) 誕生地球創生期から現在の環境までの地学的な時空間スケールで学ぶ。 堆積岩・変成岩 (1) 地質構造と地史の組み立てを学ぶ。プレート運動との関連で変成作用にも触れる。 大気の構造と熱収支 (1) 大気・海洋のエネルギー循環を理解させる。	○	○	○	・評価Aは、主に定期考査や小テストと実験・観察実習で総合的に評価する。 ・Bは、主に定期考査の論述と実習報告書、課題等の内容で評価する。 ・Cは、講義や実習の取り組みやその成果物から総合的に評価する。
三 学 期	太陽放射と大気・海水の運動 日本で見られる季節の気象 (自然との共生) 自然との共生 地球環境と人類 災害と社会	14 合計 70	(1) 大気大循環（ハドレー型・ロスビー型）についても、日本の気候や異常気象を理解するために扱う。 (1) 各単元で触れた内容を振り返り、自然の恵みと災害が人間社会との密接な関係であることを確認し、自分の考えや意見を表現する。	○	○	○	・評価Aは、主に定期考査や小テストと実験・観察実習で総合的に評価する。 ・Bは、主に定期考査の論述と実習報告書、課題等の内容で評価する。 ・Cは、講義や実習の取り組みやその成果物から総合的に評価する。

教科・科目	芸術・音楽 I	2 単位	対象学年	1 学 年
教 科 書	MOUSA 1 （教育芸術社）		教 科 担 当 者	
副 教 材	なし			

目 標	【A：知識及び技能】 曲想と音楽の構造や音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	【B：思考力、判断力、表現力等】 音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫できるようにする。	【C：学びに向う力、人間性等】 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
-----	--	---	--

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	歌唱	2 6	発声や言葉の発音等の基礎的な内容を理解し、効果的に表現するための技能を身に付けることができる。	○	○	○	・出席状況 ・授業での取り組み ・実技発表・実技テスト ・提出物
	ボディ・パーカッション		友人と協力しながら、素敵なアンサンブルを創りあげることができる。リズムを活かした表現ができる。	○	○	○	
	楽典		音部記号、音符・休符、音名・階名、拍子、音階等の基礎的な内容を理解し、楽譜を読むことができる。	○		○	
	箏		日本の伝統音楽に触れ、日本の文化に対する理解を深めることができる。箏の様々な手法を習得し、合奏曲を演奏することができる。	○	○	○	
二 学 期	箏	3 0	日本の伝統音楽に触れ、日本の文化に対する理解を深めることができる。箏の様々な手法を習得し、合奏曲を演奏することができる。	○	○	○	・出席状況 ・授業での取り組み ・実技発表・実技テスト ・提出物
	歌唱		曲の構成、各パートの役割を理解し、合唱表現を工夫することができる。歌詞や曲の特徴を踏まえ、曲の雰囲気にあった表現ができる。	○	○	○	
	ギターアンサンブル		ギターの基礎的奏法を身に付けることができる。和音進行、各パートの役割を理解し、素敵なアンサンブルを創りあげることができる。	○	○	○	
	楽典		和音進行等の基礎的な内容を理解することができる。	○		○	
三 学 期	歌唱	1 4	より豊かな合唱表現を目指して、意欲的に取り組むことができる。	○	○	○	・出席状況 ・授業での取り組み ・実技発表・実技テスト ・提出物
	クラスコンサート		練習計画をたて、友人と協力しながら、素敵なアンサンブルを創りあげることができる。より豊かな表現を目指して、積極的に取り組むことができる。	○	○	○	
		合計 7 0					

教科・科目	芸術・書道 I	2 単位	対象学年	1 学 年
教 科 書	書 I		教 科 担 当 者	
副 教 材				

目 標	【A：知識及び技能】 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	【B：思考力、判断力、表現力等】 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	【C：学びに向う力、人間性等】 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
-----	---	--	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	(1) オリエンテーション (2) 書道アートカード (3) 臨書入門（一字書） (4) 楷書古典の臨書 ①孔子廟堂碑 ②九成宮醴泉銘 ③雁塔聖教序 ④顔氏家廟碑 ⑤牛橛造像記 (5) 書道レクリエーション	26	(1) 中学書写の内容をふり返りながら高校書道の学習内容に触れ、両者の違いが理解できるよう働きかける。 (2) アートカードを使った鑑賞を通してグループでのコミュニケーションの機会を作り、学習に主体的に取り組んでいく態度や、知識・技能の習得への意欲を喚起するように促す。		○	○	ワークシート
			(3) 教科書掲載の全ての書の中から自分の興味・関心に合わせて一字を選び、自分なりの臨書を実践できるよう働きかける。 (4) 臨書を通して楷書の基本点画を確認するように促す。 すべての古典について範書を行い、その特徴を理解して清書するよう働きかける。	○	○	○	ワークシート 臨書作品 創作作品
二 学 期	(6) 対話型鑑賞 (7) 行書古典の臨書 ①集王聖教序 ②蘭亭序 ③風信帖 ④争坐位文稿 (8) 臨書作品制作 (9) 漢字仮名交じりの書 (10) 生活の中の書 (11) 古筆の臨書（高野切第三種） ①いろは歌（単体） ②蓬莱切（連綿） ③蓬莱切（まとめ）	30	(6) 際立った特徴をもつ書3点以上の鑑賞を通して気づいたこと、感じたことなどを言語化し、グループ内で共有するとともに、鑑賞のための様々な観点があることを示す。 (7) 臨書を通して行書の基本用筆を確認するように促す。 すべての古典について範書を行い、その特徴を理解して清書するよう働きかける。 (8) 自分の興味・関心に応じた古典を選択し、その特徴を理解して清書するよう働きかける。 (9) 自分の興味・関心に応じた言葉を選択し、漢字と仮名の形、線質、全体の構成を工夫して思いにかなう表現を実践するよう働きかける。 (10) 日常生活の中で自分がよいと感じた書を写真に撮りに Padlet に投稿、その書のどのような点によさを感じたか、個人発表を通して述べるよう促す。 (11) 臨書を通して仮名の書の基本用筆を確認するように促す。あわせて、変体仮名への理解を深めるようなワークを実施する。	○	○	○	ワークシート 臨書作品 創作作品
三 学 期	(12) 自由制作 ①作品概要書の作成 ②制作 ③合評会	14	(12) これまでの学習内容をふまえ、自分の興味・関心に応じた書に関わる表現を目指すよう働きかける。作品概要書を作成するとともに、見通しを立てて制作に臨むよう促す。				作品概要書 作品 発表
		合計 70			○	○	

教科・科目	芸術 美術 I	2 単位	対象学年	1 学 年
教 科 書	美術 1		教 科 担 当 者	
副 教 材	なし			

目 標	【A：知識及び技能】 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	【B：思考力、判断力、表現力等】 造形的なよさや美しさ，表現の意図と創意工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり，価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	【C：学びに向う力、人間性等】 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み，生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，美術文化に親しみ，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
-----	---	---	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	オリジナル判じ絵制作	2	判じ絵を読み解く楽しさを体感したうえで、オリジナル判じ絵を制作する。	○		○	定期考査、実験レポート 課題レポート、 グループ発表 など
	寄せ絵で自画像	16	歌川国芳とアルチンボルトの寄せ絵を鑑賞し、そのユーモラスさや時代背景について学ぶ。 自身でテーマを設定し、自分自身の横画をモチーフにした寄せ絵絵画を制作する。 絵による自己表現を通して、見方や感じ方を深める創造活動に主体的・意欲的に取り組む。	○	○	○	作品・ワークシート・ 授業態度・出欠
	静物デッサン	8	デッサンの基礎となる、輪郭・陰影・空間・形態・質感など 様々な見方を身につける。 鉛筆によるデッサン表現の活動を通して見方や感じ方を深める創造活動に主体的・意欲的に取り組む。	○	○	○	作品・ワークシート・ 授業態度・出欠
二 学 期	架空の生物	20	様々な生物の特徴や構造等を基にオリジナルの生物を構想し、粘土による立体表現の特性を生かして創造的に表す。 架空の生物というテーマから主題を生成し、粘土による立体 表現の特性を生かし、形や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ったり鑑賞したりする。 粘土による立体表現の活動を通して見方や感じ方を深める創造活動に主体的・意欲的に取り組む。	○	○	○	作品・ワークシート・ 授業態度・出欠
	ストップモーションアニメーション	10	テーマを基に、ストップモーションアニメーションの特性を生かして創造的に表す。 主題を生成し、ストップモーションアニメーションの特性を生かし、画面構成・撮影方法などについて考え、創造的な表現の構想を練ったり鑑賞したりする。 ストップモーションアニメーションで表現する活動を通して、見方や感じ方を深める創造活動に主体的・意欲的に取り組む。	○	○	○	ワークシート・授業 態度・出欠
三 学 期	ストップモーションアニメーション続き	14	テーマを基に、ストップモーションアニメーションの特性を生かして創造的に表す。 主題を生成し、ストップモーションアニメーションの特性を生かし、画面構成・撮影方法などについて考え、創造的な表現の構想を練ったり鑑賞したりする。 ストップモーションアニメーションで表現する活動を通して、見方や感じ方を深める創造活動に主体的・意欲的に取り組む。	○	○	○	作品・ワークシート・ 授業態度・出欠
		合計 70					

教科・科目	保健	1 単位	対象学年	1 学 年
教 科 書	新高等保健体育		教 科 担 当 者	
副 教 材			A() B() C()	

目 標	【A：知識及び技能】 学習の過程を通じた知識の習得状況について評価するとともに、それらを既有的知識と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できるように概念等を理解しているかを評価する。	【B：思考力、判断力、表現力等】 保健の知識を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかを評価する。	【C：学びに向う力、人間性等】 自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価する。
-----	--	---	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	1 単元 現代社会と健康 1 日本における健康課題変遷 2 健康の考え方と成り立ち 3 ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり 4 健康に関する意志決定・行動選択 5 現代における感染症問題 6 感染症の予防 7 性感染症・エイズ予防	13	(1) 国民の健康水準と健康の意義を理解させる。	○	○		課題レポート、グループ発表
			(2) さまざまなライフスタイルが健康に及ぼす影響を知り、食事・運動・休養・睡眠・喫煙・飲酒・薬物及び医薬品等の正しい使い方を理解する。		○	○	定期考査、ノート提出
二 学 期	8 生活習慣病の予防と回復 9 身体活動・運動と健康 10 食事と健康 11 休養・睡眠と健康 12 がんの予防と回復 13 喫煙と健康 14 飲酒と健康 15 薬物乱用と健康 16 精神疾患の特徴 17 精神疾患への対応	15	(3) 新たな感染症問題の防止のために、自分でやること、社会がすべきことを理解する。 (4) エイズの実態を知り、エイズや性感染症の予防のためにすべきことを理解する。 (5) 脳の機能を知り、心の健康について理解を深め自己実現することの意義を理解する。	○	○	○	課題レポート、グループ発表 定期考査、ノート提出
三 学 期	18 事故の現状と発生要因 19 交通事故防止の取り組み 20 安全な社会形成 21 応急手当の意義と救急医療体制 22 心肺蘇生法 23 日常的な応急手当	7	(6) 二輪車や自動車の特性等を理解し、安全な社会を構築する大切さを知る。 (7) 救急法の意義とその具体的な方法についてダミーを使用して身につける。	○	○	○	
		合計 35					

教科・科目	体育（女子）	2 単位	対象学年	1 学 年
教 科 書	大修館 「新高等保健体育」		教 科 担 当 者	
副 教 材	なし		A() B() C()	

目 標	【A：知識及び技能】 実践種目の技能向上、実技種目のタイム向上を目指し、体力の向上を身に付ける。各種目の運動特性を理解し、知識を身に付ける。	【B：思考力、判断力、表現力等】 自己の能力に適した運動の課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫させる。	【C：学びに向う力、人間性等】 自ら進んで運動を実施し、運動の楽しさや喜びを体得させる。生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。
-----	---	--	--

学期	単元	時間	指導内容・留意点等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一学期	A 陸上競技 体づくり運動 (新体力テスト)	26	◎バレーボール ・パス、レシーブ、スパイク、ブロック ・簡易ゲーム ◎陸上競技、体づくり運動 ・短距離走 ・投てき種目 ・体力向上のための運動 ◎水泳 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ	○	○	○	実技到達度テスト タイム測定 課題レポート 実技種目への振り返り 実技種目への自主的な 取り組み 課題解決への態度 出席状況など
	B バレーボール		水泳				
二学期	A 水泳 ソフトボール	30	◎水泳 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ。バタフライ ◎バスケットボール ・パス、キャッチ ・ドリブルシュート ・簡易ゲーム ◎ソフトボール ・キャッチボール ・守備練習	○	○	○	実技到達度テスト 課題レポート 実技種目の振り返り 実技種目への自主的な 取り組み 問題解決への態度 出席状況など
	B 水泳 バスケットボール		・セットショット ・対人防御 ・バッティング ・バッティング ・関係プレー ・ゲーム				
三学期	A 長距離走	14	◎長距離走 ・タイム走 ・距離走	○	○	○	タイム測定 実技到達度テスト 課題レポート 実技種目の振り返り 実技種目への自主的な 取り組み 問題解決への態度 出席状況など
	球技選択	合計 70	◎球技選択 ・提示した球技（バレーボール、バドミントン等の 中から選択）				

教科・科目	体育（男子）	2単位	対象学年	1学 年
教科書	大修館 「新高等保健体育」		教科担当者	
副教材	なし		A() B() C()	

目標	【A：知識及び技能】 実践種目の技能向上、実技種目のタイム向上を目指し、体力の向上を身に付ける。各種目の運動特性を理解し、知識を身に付ける。	【B：思考力、判断力、表現力等】 自己の能力に適した運動の課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫させる。	【C：学びに向う力、人間性等】 自ら進んで運動を実施し、運動の楽しさや喜びを体得させる。生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。
----	---	--	--

学期	単 元		時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
					A	B	C	評価方法
一 学 期	A バレーボール 水泳	B 陸上競技 体づくり運動 (新体力テスト) 水泳	26	◎バレーボール ・パス、レシーブ、スパイク、ブロック ・簡易ゲーム ◎陸上競技、体づくり運動 ・短距離走 ・投てき種目 ・体力向上のための運動 ◎水泳 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ	○	○	○	実技到達度テスト タイム測定 課題レポート 実技種目への振り返り 実技種目への自主的な 取り組み 課題解決への態度 出席状況など
二 学 期	A 水泳 バスケット ボール	B 水泳 ソフト ボール	30	◎水泳 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ。バタフライ ◎バスケットボール ・パス、キャッチ ・セットショット ・ドリブルシュート ・対人防御 ・簡易ゲーム ◎ソフトボール ・キャッチボール ・バッティング ・バッティング ・守備練習 ・関係プレー ・ゲーム	○	○	○	実技到達度テスト 課題レポート 実技種目の振り返り 実技種目への自主的な 取り組み 問題解決への態度 出席状況など
三 学 期	A 長距離走 球技選択	B 長距離走	14	◎ 長距離走 ・タイム走 ・距離走 ◎ 球技選択 ・提示した球技（バレーボール、サッカー等の 中から選択）	○	○	○	タイム測定 実技到達度テスト 課題レポート 実技種目の振り返り 実技種目への自主的な 取り組み 問題解決への態度 出席状況など
			合計 70					

教科・科目	論理・表現 I	2 単位	対象学年	1 学 年
教 科 書	Crown Logic and Expression I		教 科 担 当 者	
副 教 材	・Ultimate 総合英語 2nd edition・Vision Quest Advanced Workbook ・Vintage 英文法・語法 4thEdition Q: Skills for Success Reading and Writing 2 (Oxford University Press) ・英語コア構文 99		A() B() C()	

目 標	【A：知識及び技能】 表現形式と機能を理解した上で、伝えたい事柄について、話しかけたり例を挙げるやり取りの表現の機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、自分の考えを伝え合う技能を身に付ける	【B：思考力、判断力、表現力等】 アイデアの中から適切なものを取捨選択し、それを基本的な語彙や文法を活用して表現して伝えたり、相手からの質問に応答したりできる。またアイデアや情報の中から適切なものを取捨選択し、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、聞き手を意識しながらスピーチできる。	【C：学びに向う力、人間性等】 主体的に考え、複数のアイデアの中から適切なものを取捨選択し、それを基本的な語彙や文法を活用して主体的に表現して伝えようとしたり、相手からの質問に応答することができる。
-----	--	--	--

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	[Crown] Lesson 1 OriHime Lesson 2 Breakfast Makes [Q skills] Unit1 Why does something popular? Unit2 How do colors affect our behavior? [Ultimate] ・文型 ・動詞語法 ・時制 ・動作動詞と状態動詞 ・完了形 ・時制の一致 ・助動詞	26	①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [TaskやPresenting Your Ideasの発表，ライティング，スピーキング Task]（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト，中間・期末考査，評価問題など（知識・技能，思考・判断・表現）	○	○	○	定期考査、グループ発表、個人発表、Task や Presenting Your Ideas Unit Activity の発表 など
			①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ②言語活動（ペアワークやグループワークを通じての、思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ③課題等の提出（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト，中間・期末考査，評価問題など（知識・技能，思考・判断・表現） ⑤習熟度別クラスで、上級クラスでは難易度の高い問題を提示し、より深い理解と定着を図る。下級クラスでは、理解を深めるためのプリント等を配布し、理解を深めさせる。	○	○	○	定期考査、課題提出 など
二 学 期	[Crown] Lesson 3 Cool Japan Lesson 4 Save Our Planet [Q skills] Unit3 What does it mean to be polite? Unit4 How can technology improve performance? [Ultimate] ・受動態 ・不定詞 ・動名詞 ・分詞 ・関係詞	30	①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [TaskやPresenting Your Ideasの発表，ライティング，スピーキング Task]（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト，中間・期末考査，評価問題など（知識・技能，思考・判断・表現）	○	○	○	定期考査、グループ発表、個人発表など
			①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ②言語活動（ペアワークやグループワークを通じての、思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ③課題等の提出（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト，中間・期末考査，評価問題など（知識・技能，思考・判断・表現） ⑤習熟度別クラスで、上級クラスでは難易度の高い問題を提示し、より深い理解と定着を図る。下級クラスでは、理解を深めるためのプリント等を配布し、理解を深めさせる。				
三 学 期	[Crown] Lesson 5 Volunteer Work for What? Lesson 6 Another Life I Might have Had [Q skills] Unit5 What makes a family business successful? Unit6 How can you learn faster and better? [Ultimate] ・比較 ・仮定法 ・否定	14	①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [TaskやPresenting Your Ideasの発表，ライティング，スピーキング Task]（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト，中間・期末考査，評価問題など（知識・技能，思考・判断・表現）				定期考査、グループ発表、個人発表など
		合計 70	①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ②言語活動（ペアワークやグループワークを通じての、思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ③課題等の提出（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト，中間・期末考査，評価問題など（知識・技能，思考・判断・表現） ⑤習熟度別クラスで、上級クラスでは難易度の高い問題を提示し、より深い理解と定着を図る。下級クラスでは、理解を深めるためのプリント等を配布し、理解を深めさせる。	○	○	○	

教科・科目	情報・情報Ⅰ	2 単位	対象学年	1 学 年
教 科 書	実教出版 高校情報Ⅰ Python		教 科 担 当 者	
副 教 材	実教出版 ベストフィット情報Ⅰ		A() B() C()	

目 標	【A：知識及び技能】 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報技術を活用して問題を発見し解決するための知識・技能を身に付ける。	【B：思考力、判断力、表現力等】 情報を活用して問題を解決するための思考力、必要な情報や解決の方法などを比較し選択するための判断力、相手や状況に応じて情報を伝えるための表現力を身に付ける。	【C：学びに向う力、人間性等】 情報を多面的・多角的に吟味し見定めていく力、情報モラルや情報に対する責任について考えようとする態度を身に付ける。
-----	---	---	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	第 1 章 情報社会 － 情報と情報社会 － 問題解決の考え方 － 法規による安全対策 － 個人情報とその扱い － 知的財産権 － 著作権 第 2 章 情報デザイン － コミュニケーションとメディア － 情報デザインの表現 － Web ページと情報デザイン	26	情報とは何か、その定義と特性を理解させる。ビッグデータや人工知能などの技術によりさまざまな困難を克服しようとしていることを理解する。 不正アクセスや個人情報、著作権など自身を取り巻く法規を理解し適切に取り扱えるようにする。 メディアごとの特性を理解し適切な選択ができるようになる。 効果的なコミュニケーションや問題解決のために情報を整理し受け手にとってわかりやすいデザインの基礎知識と技術を身に付ける。	○	○	○	授業 実習課題 定期考査
	第 3 章 デジタル － 数字と文字の表現 － 演算の仕組み － 音の表現 第 4 章 ネットワーク － プロトコル － インターネットの仕組み － データベースの仕組み 第 5 章 問題解決 － データの収集と整理 － データ処理 － モデル化とシミュレーション	30	デジタルの特徴を知りその表現、演算方法を知る。 音、画像のデジタル処理を体験しデジタル化のいい点、悪い点を理解する。 コンピュータネットワークの意義と仕組みを理解する。 POS システムや電子商取引システムなどのネットワークに接続された情報機器が連携しながらさまざまな機能を提供する情報システムを理解する。 データの収集や整理、補完を行い、実際にシミュレーションを体験する。 データの分析を行うためにデータの特徴を捉えたり、他と比較するために表計算ソフトを用いたデータ処理を行う。	○	○	○	授業 実習課題 定期考査
三 学 期	第 6 章 プログラミング － アルゴリズム － プログラミング基礎 － 配列、関数 － プログラミング実習	14	問題を解決するために、「何を」「そのような順番で」「何に対して行うか」というアルゴリズムを記述できるようにする。探索や整列の基礎的なプログラミングを通して論理的思考力を身に付ける。Python で自分が作りたいプログラムを作れる技術を身に付ける。	○	○	○	授業 実習課題 定期考査
		合計 70					

教科・科目	総合的な探究の時間	2 単位	対象学年	1 学 年
教 科 書	「人間と社会」東京都教育委員会		教 科 担 当 者	
副 教 材				

目 標	【A：知識及び技能】 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	【B：思考力、判断力、表現力等】 実社会や実生活と事故との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立てて、情報を集め、整理・分析して、まとめ、表現をしている。	【C：学びに向う力、人間性等】 探究活動に主体的・共同的に取り組もうとしているとともに、互いの良さを生かしながら、新たな価値を想像し、よりよい社会を実現しようとしている。
-----	---	---	--

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	・ ガイダンス ・ 探究活動の基礎	26	○ ガイダンスや講義を通して現代社会の諸問題について考える。	○	○	○	課題レポート、 グループ発表 など
二 学 期	・ 研究活動 ・ 中間発表	30	○ ゼミごとに分かれて研究活動を行う。 ○ 中間発表に際して、情報を整理し、正しく伝える能力を育成する。	○	○	○	課題レポート、 グループ発表 など
三 学 期	・ 研究活動 ・ 最終発表	14	○ ゼミごとに分かれて研究活動を行う。 ○ 1 年間のまとめを行う。	○	○	○	課題レポート、 グループ発表 など
		合計 70					